

全国山城 サミット 開催記念連載「益田の山城探訪」(全8回)

第2回 板井川城跡 (いたいがわじょうあと)・宇津川城跡 (うづかわじょうあと)

【問い合わせ先】

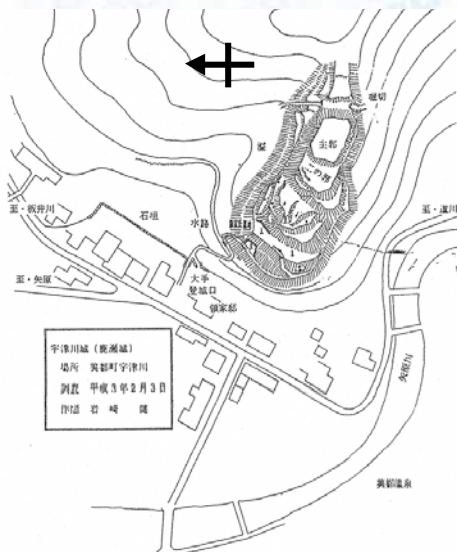
市文化振興課 ☎ 31-0623

今年11月16日(土)・17日(日)に益田市において「第31回全国山城サミット益田大会」が開催されます。これにあわせ、本連載では市内の代表的な山城を紹介します。

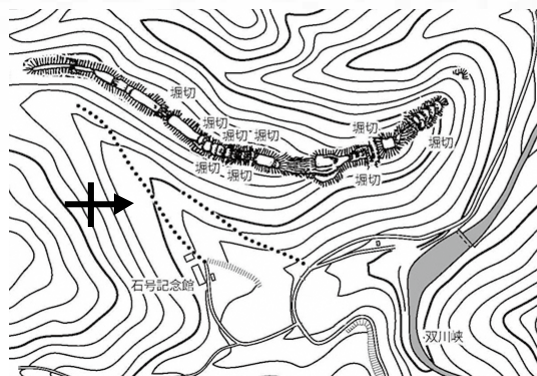
美都町の板井川と宇津川には、それぞれ板井川城跡と宇津川城跡があります。

板井川城跡は、板井川の奥まった場所にあり、茶ノ木(わかすぎ)芋原を経て安芸国(広島県西部)に抜ける街道が麓を通ることから、この街道を通って攻めてくる敵に備えた城と考えられます。尾根を分断する堀切(ほりきり)「尾根伝いに攻められないよう、尾根を分断するように掘られた堀」が何重にも築かれた堅固な山城でした。南北朝時代の1341年と戦国時代の1561年に合戦が行われ、1561年の戦いで益田氏に攻略されました。

宇津川城跡は、宇津川のまちと矢原川を眼下に収める位置にあります。尾根の先端を要塞化して、主郭(しゅかく)(中心となる平坦な面)の前面に曲輪(平たにした面)が



宇津川城跡縄張図(岩崎健氏作成)



板井川城跡縄張図(岩崎健氏作成の図に加筆)

三段ほどあり、まちから見上げると威厳のある立派な姿であったと考えられます。また、主郭の背後には堀切があり、後方にも備えています。戦国時代の1556年、激しい戦いの末、益田氏に攻略されました。